## 平成23年度第1回宗像市幼児教育審議会

## 議 事 録

期 日:平成23年9月12日(月) 時 間:19:00~21:00 会 場:宗像市役所201会議室

審議会委員								
田中	敏明	0	村田 昭孝	£ 0	納富	恵子		0
吉田	靖生	0	原田 勝子	- 0	内田	龍男		$\bigcirc$
髙杉	洋史	0	堤 智行	0	松浦	幸恵		0
加藤	賢一	0						
事務局								
柴田	祐治	中野	万由美	髙橋 矢	口子	冷牟田	侈	受彦

## 配布資料

- · 平成23年度 第1回宗像市幼児教育審議会次第
- ・ 宗像市幼児教育振興プログラム (案)
- ・ 平成23年度 宗像市幼児教育振興プログラム策定に関するスケジュール
- · 宗像市幼児教育審議会委員名簿
- 1. 会長挨拶
- 田中 敏明 会長
- 2. 委嘱状の交付
- ・ 人事異動に伴う2名の委員の辞任による、補欠委員2名への委嘱状交付 村田 昭孝 内田 龍男
- 3. 委員、事務局の自己紹介
- 4. 議事録について
- ・ 宗像市市民参画、協働及びコミュニティ活動の推進に関する条例施行規則第6条により、 議事録の作成方法を、「会議内容の要点を記録する方法」に決定

## 5. 議事

- ・ 平成19年度に策定した宗像市幼児教育振興プログラムの実施期間が5年を経過し、平成23年度で終了するため、平成24年度から平成28年度までを実施期間とする宗像市幼児教育振興プログラムの策定を宗像市幼児教育審議会に諮問する。(宗像市教育委員会委員長からの諮問書を田中会長に渡す)
- ・ 事務局から宗像市幼児教育振興プログラム(案)の内容について、資料に沿って説明を 行う。

平成19年度に策定した幼児教育振興プログラムは、国の幼児教育振興アクションプログラムをもとに策定した。現在のところ、新たな国の指針がでていないので、本市の現状を踏まえた上で、現行のプログラムを見直す形で次期プログラムを改訂したいと考えている。

- ・ この審議会後、パブコメ等で意見があれば、2月の答申前に審議会を開催する必要があるかもしれない。
- ・ 今後、新たな国の指針が出る可能性がないとして、このプログラムを作成しているのか。 今後、新たな国の指針がでる可能性はあるのか。
  - →国では、子ども・子育て新システムが、平成25年4月施行をめざして検討されているが、詳細はまだ決定していない。プログラムの策定後に指針等が出れば、適宜対応していく。
- ・ 保育所ハード面の充実が必要。今後、保育所の0才・1才の需要はますます増加する。 宗像市の保育所の入所児童は、現時点で定員を超えている。運動場に教室をつくるよう になれば、幼児教育の充実にはならないのではないか。
- ・ この5年間で保育所・幼稚園の総合施設ができるかもしれない。大きく情勢が変わるかもしれない。これを見通しながらも、保育所に受け入れる状況を作っていくように努めるぐらいは入れておきたい。
- ・ 保育の入所条件を満たしていないが、保育の必要がある子に関しても考えていく必要が ある。これも新システムの動向による。
  - →現在、保育所の待機児童ゼロは維持している。定員を超えているが、面積・職員数では、最低基準を守っている状況である。最近では0才・1才の入所が急増しており、 予測が難しい状況である。

保育所の整備に関しては、待機児童ゼロを維持するために、このプログラムとは別に 進めている。増加する入所児童に対応するため、今年度2園で施設整備を行っている。 来年度は1,290人の定員でスタートする予定。

- ・ 認可外の保育施設の経営が困難となり廃止したが、その後も問い合わせが多い。認可外の保育施設を支えていくことも大切になってくるのではないか。これから先、保育ママ等を含め、認可施設を増やすよりも、現在ある地域の施設を充実させるのも方法の一つではないか。
- ・ 保育士と教員の資質の向上が課題である。新規採用しても一年で退職するなど、指導しても継続しない。資質の低下が顕著に現れてきた。具体的な対応策が必要ではないか。
- ・ 人材の確保が厳しくなってきている。そのため、保育所の受け入れが思うようにできない。福岡市では、独自に手当など出しているが、宗像市は出ていないので、人材確保では勝負にならない。給与面での手当があれば確保しやすくなる。
- ・ 保育士と教員に仕事のやりがいをもたせることが大切。
- 新卒者だけでなく地域の人材を活かす方法もある。不足していると言っても、家庭で子育て後、資格のある人はまだたくさんいる。少しの時間だけ働ける人もいる。そういう人の活用ができないか。
  - 養成講座や研修会はあるが、その後の活用方法がない。どこか、登録をまとめる等、 市で検討する必要があるのではないか。他ではやっていないし、非常によい方法と思 われる。具体的な施策でなく、そういう方向に向けて施策を行うという表現でもいい と思う。
- ・ 保育士の養成校は増加しており、資格を持った人も増えているが、保育士にならなかったり、早期退職の増加も事実である。原因の一つは給与面。サービスの多様化により、 臨時や非常勤が増え、正規職員ではない保育士が多い。
  - 保幼が連携して、勤務条件の改善と養成校との連携等を考えていくのも方法の一つである。
- ・ 保育士が早期退職する原因は、給与・保護者対応・特別支援の必要な子への対応等ある と思うが、特に給与等が大きい。また、成績優秀者であっても挫折経験がないので、保 護者対応でつまずくことがある。
- ・ 教育大の教職大学院では、宗像市・福津市の小中学校の教員向けに研修プログラムを組んでいる。市から幼児教育に必要な内容を要求すれば、保育所・幼稚園も参加できるのではないか。
- 研修で教育大をうまく活用すれば、お金はかからない。
- ・ 人材育成を進めるためにも、教育大と連携して行わないともったいない。
- ・ 研修については、教育大だけでなく日赤看護大との連携もできればさらによくなるので はないか。
- ・ 園の自己点検、自己評価については、統一したものが作成されれば、有難い。 →私立の各園にはそれぞれの特色がある。すべての評価を市で統一するとなると、さま

ざまな意見があるのではないか。ただ、このプログラムに関連する部分については、 全園での取り組みを推進し事業評価を行っていきたい。

- ・ 保育所は第三者評価が進んでいる。園の特色が失われるような細かい項目の必要はない。 基本的・共通項目だけを作って評価する方法もある。
- ・ 宗像市の育てたい幼児像に沿う、評価項目だけでもいい。
- ・ 家庭の教育力は大切だが親になるまでが重要。親になってからでは遅い。親になる前の 手立てが、何かできないものか。
  - →妊娠後、生まれてから乳幼児期まで、段階的に親育ちとしての取り組みは行っている が、親になる世代への取り組みも課題である。
- ・ 幼児の日々の生活の連続性を確保するため、三者(家庭・地域・園)が一貫性を持たせる取り組みが、一番難しいと思う。住んでいる地区が異なるところから園児が来るという状況があるが、具体的なものが少しでもできたらいい。
  - →各園での取り組みとしては、コミュニティ・老人クラブ・高齢者施設・地区のまつり 等との連携や、コミセンへの「園だより」の配布による情報の共有化等がある。今回 の案では、三者の共通目標を設定して一貫して取り組むこととしている。
- ・ 与えられたらやるが、自分から何かを与える概念が希薄になっている気がする。子どもであっても、コミュニティ等で奉仕することを課せる等が必要ではないか。親も、何をしてくれるかが多いところで園を選んだりする。良い教育は、園に求めるだけではできない。親に求められることが多いのではないのか。
- 保幼が連携して、保護者に少なくとも伝えることを決めてもいいと思う。
- ・ 今回の審議内容を踏まえた原案の修正については、事務局で作成し、会長・副会長が審議会を代表し確認を行う。その後、会長・副会長が承認したものを委員へ送付することとする。